

中齋塾 東京フォーラム
平成 30 年度 第 10 回講話

平成 30 年 11 月 10 日
於 湯島聖堂

おはようございます。猪瀬理事長の論語素読は読み方が変り、とても良くなったと思っております。自分の体の中に論語が馴染んでいるのかなと思いました。みなさんのお手元にあります群馬郷学会のチラシで、猪瀬理事長が唯識学の話をするので、もしお時間があって行けるようであれば 11 月 18 日前橋なので、お出かけください。

8 月に佐藤一齋に関する本を読み込み始めました。以前『重職心得箇条』を小学館文庫で出版をしていますから佐藤一齋のことについては若干頭の中には入っていたつもりでしたが、改めてまた読み直しをしました。8 月はいつも赤城山に籠るので、山の中で読み込みが終わると思っていたら、読み込みが終わりませんで、9 月半ばまでかかり 9 月の後半から周りの人に迷惑をかけて、10 月末で形にいたしました。

これが原稿です。前回は三島中洲を書き、次は中江藤樹を書こうと思い、何回も記念館に行ったのですが書けない。やっぱりこれは書きたいと心の底から思わないと書けない。中江藤樹は日本の陽明学の祖といわれていました。日本陽明学の祖と言い出したのは誰かと調べたけれども分かりません。言われているという引用は沢山あったのですけれど、御本人は自分を陽明学者とか陽明学の実践者とは言っておりません。面白いことに自分で陽明学者または陽明学を実践していると言いきる人はとても少ない。

現地に行き現地で体験をする。何かあったときにはすぐ調べる。すぐ行動に移し、すぐ現地へ行き自分の眼で確認する。日本の中では現場主義だとか、学問の匂いをする方たちが即行動すると、後づけで陽明学者と評価が下される。本人は陽明学者と思ってないですね。佐藤一齋も自分で陽明学者とは言っておりませんでした。

今回は中江藤樹を書きたいという気持ちがなかなか起きないので一齋に切り替えようと思った瞬間から、どんどん身体の中から沸き起こるものが出てきました。本も読みたいと思いついて読んでいた。やっぱり沸き起こる物がないと、本にしようという気にはなりません。でも何故そうなのかなと考えていたら、中江藤樹はあまりにも聖人君主すぎて何か近寄りがたい。人間どこか隙がないと寄っていけないという気がいたします。中江藤樹は本当にもう非の打ちどころの無いような形で後世に伝わっています。ただ本人は、若い頃はかなり角張った人物で、自分の思うとおりに世の中が動いていかない、自分の思い通りのことができない。評価も自分の思ったものと違うということで、とてもつづった青年時代を

おくっています。まあそういうことで、中江藤樹はそういう気が起きなかったが、佐藤一斎はすごく起きた。何故かなと考えたら、惹きつけられるものが最初からあった。私、陽明学シリーズが終わったら、次は妖怪変化の小説を書きたいと申しあげていますがけれども、佐藤一斎は妖怪変化大好き人間だという感じがします。一番動機になったのは妖怪変化のところですよ。

佐藤一斎の故郷の天瀑山に人面鳥がいるという話があり、一斎も出かけて行ったと漢詩に残っています。人面鳥、大鷲が年を経て、人間の顔に段々近づいてきて妖怪変化の一部になってきてみたいなことを書き残しています。しかも自分の書いた漢詩を天瀑山の岩に彫り残したいと書き残しています。この間、地元の方が言っていました、そういうものは時間が経って分からない。それで地元の有志が集まって、また大きな岩を見つけて彫ったということで、それ見たくなりまして連絡を取りましたけれども、いま行くと熊がいるから完全装備をしていかないと、いつ熊に襲われるか分からないと言われて、その時は家内と一緒にいましたから止めました。でも、その岩の写真を本に載せたいと思い聞いたら写真はあるといいます。…今は便利な世の中だなと思います。私の頭の中はアナログだから「写真があるなら写真を送ってほしい」と頼んだら「データで送りますからメールアドレス教えてくれませんか」と言うので、中斎塾事務局に変わりました。佐藤一斎顕彰会の会長さんは、定年退職して地元で教育長をしておられた。ご年配なのですが「データで即送りますからメールアドレス送ってください」というのは、やっぱり今はそういう時代なんだなと思いました。ということで、一瞬のうちに写真が私の手元に届きました。今の世の中どんどん変わります。出版社も同じです。以前は原稿を書いて送っていましたので、そんなつもりでいたら「最後ギリギリまで入れた原稿をデータで貰うことになっていますから、実物はお持ちにならなくて結構です」ということで、世の中は変わっていくなと思います。私もスマホは持っていますが、せいぜい使うのは写真とメールと知りたい物を調べるとか、ほんの 5 つぐらいしか機能を使っていません。もったいないなと思います。頭の中を切り替えていって、使えるようにしなきゃならんと思っています。

前から申しあげていましたが、今日は石川忠久先生が 85 歳の誕生日の時に御自分で書かれた漢詩を、平成という年号の間に御本人から話してもらうのが良いなと思ってお願いしております。そろそろ現れる可能性がある。先生が現われるかなと思いつつ恒例の質問を聞きましょう。

恒例の質問

かつて私が漢文を習った石川梅次郎先生に「会社を興して、ある程度大きくなると心が渴くよ」と同時に「還暦を過ぎたら社会に恩返しをする年代」と言われたことが頭の中に

残っていました。あと、柴田周蔵という督学をされた先生が、会社をつくったら、たいがい失敗する。会社をつくって失敗しない、人生もまともにいきたいと思ったら、良い言葉がある。その言葉どおり守っていけば良い人生が送れるけど聞きたいか？と言われるので、是非にと教わりました。これも何回か申し上げています。

一つ、「訳のわからない金に手を出すな」

もう一つ、「女は泣かすな」。昔の科白ですからね。柴田周蔵先生は「女は泣かすな」っていうのは「女性泣かすな」という意味ではないですね。若い子も少し年配の方も全部ひっくるめて親近感をもって「女」という言いかたをしていました。何度も申し上げている話ですけれども、宇野宗佑という人は女を泣かし、手切れ金をケチったから総理大臣を転げ落ちたと思います。

それで私も社会に対して恩返しをする年代に入る時に、恩返しは何をするんだろうと一生懸命考えていたら、そのとき視野にあったのは、日本の国の中で役に立つもので、日本から世界に広がり世界に役に立つこと。そうすると「足るを知る」という言葉が腑に落ちていましたので、ほどほどが良い。「足るを知る」は学問的な体系づけは、きちんとなされていなくても、仏教の中にもあります。道教の中にもあります。個人の知恵の中にもあります。言葉を変えたもので色々な表現がある。「足るを知る」、「知足」という言葉が良い。それを世の中に広げる仕事にしたい。これが世の中に対する恩返しだということで始めました。それを具体的にしていくのに質問を今は6つこしらえているわけです。

「嘘について」

嘘をつかない人生は、とても今、必要だと思います。まわりを見渡したら嘘だらけです。初めてお会いする政治家、特に国会議員はどうしようもない人が多いですね。相対でお喋りすると「舌は何枚おありですか」って聞けば、海千山千になっている議員だと「舌は何枚だってそりゃあるよ」と言います。秘書の方に聞いても同じだと思います。だからこの間のニュースで流れていた100万円口利き事件はごく当たり前の話でしょう。秘書はポケットに自分の稼ぎを入れるのが当たり前という感覚。私がお付き合いした秘書さん達は大体そういう感覚でした。口を聞いたら貰うのが当たり前じゃないかと。貰わない清廉潔白な人がどれだけいるのかと感じていますので、この日本の国の中は嘘だらけだと思っています。政治家、経済人、財界人という人たち。ただ終戦直後は清廉潔白な人が多かったと思います。調べてみると政治家では、吉田茂は養父・吉田健三がべらぼうなお金を遺産として茂に残していましたが、使い果たしてしまっただけで、娘の和子が嫁いだ麻生財閥からもお金をどんどん受け取っている。スポンサーがいないとやっていけない。昔、井戸堀政治家というのがありましたが、今は井戸堀政治家ではなくて成金政治家ばかり。政治家をやるとお金が入ってくるということでしょう。

今の時代は嘘をつくのが当たり前の経済人、嘘をつくのが当たり前の政治家というふうに変ってきました。だからこそ、嘘をつかない集団があっても良いのではないかと思います。中斎塾は嘘つきませんと標榜している変わったグループで、まあ2~3年もてばいい

など知人から言われていましたが、10年続いてしまいました。まだ続きそうです。しがいて、嘘をつかない人生をどうぞお進みください。さて今年は、あと1ヶ月ありますが、前に矢野顧問が「あなたのグループだから嘘をつかないと言い切れるけども、一般の方に向かって、ここまできっぱりやらないほうがいいですよ」と、アドバイスがあったので「比較的嘘をつかなかった」に和らげました。

・約1年間、比較的嘘をつかない日が多かったと思う方でしょうか。

手を挙げた方は、今の政治家、今の経済人、財界人より上等だと思ってください。外国に行ったときには嘘をつかない日本人をお願いを致します。

・今年約1年間、良い日が続いたなど主観的に思われる方。

くれぐれも客観的ではございません。客観は天秤に掛けますから。天秤に掛ける良い日というのは、これも嘘に繋がってくる。客観をずっと突き詰めると主観になります。主観も突き詰めていくと客観になります。ですから主観から入るのが良いと思ってください。

・有難うと言い、有難うと言われる日が多かった方。

「有難う」を言うのは当たり前だとしても、「有難う」と言われるのは難しいです。この間、「有難う」と今日は言われてないなと思い朝から思い返して行って、今日は医者にも行ったけど、あそこは「お大事に」と言ったが、「有難う」とは言っていない。でも主観的に「有難う」と置き換えました。お大事にというのは、有難うという気持ちが中に入っていた。だから「有難う」とは言わないけれども、ちょっと頭下げた。あれは拡大解釈して「有難う」にしておけばよいと思い安心して寝ました。ですから「有難う」と言われることも主観ですので、主観でいきましょう。

・今年1年間、健康法を続けている。

最近、健康法は呼吸法をと言っていたのを少し切り替えました。真向法を私はしていますが、毎月真向法の団体から手紙が来ます。その中に浪越徳次郎という方が出している健康の五箇条が良いなと思いました。あの人は指圧なので押す話をします。息を吐きながら、みぞおちを5秒ほど押す。それを30回。息をハーと吐きながら押して、手を放すと2秒くらいで息を吸います。健康の元は胃袋です。胃袋を元気にしてください。指圧だから、胃袋を押すことによって、胃袋を運動させて健康に直結をさせる。だから今日はあまり健康法をやらなかったと思った時には胃を押すようにしています。普通、健康法をやる時には、ただ寝たまま、息を吐いて吸う。私が呼吸法の話をするときには、お腹を押してくださいといいます。お腹を押して息を吐く。そして離す。これは腹式呼吸の一番基本的な方法です。腹式呼吸は文章を読むと実に分かりにくい文章で書いてあるけど、手でお腹を押せばいい。これからは、手でお腹を押すだけではなくて、意識的に指圧に切り替えまし

た。ということで、今日なにもしなかったなと思ったら、仰向けに寝て胃袋を30回、5秒ずつ押す。そうすると、健康法を実践したという満足感と実際の効果も出てくると感じます。

次はお金が寄ってくる方法ですが、昨晚も鉄砲洲神社に行き詩吟の練習をし、論語の講釈をいたしました。鉄砲洲神社の入口に、人間を磨くための方法が四つ書いてあります。

「威張るな」威張ると神に見放される。

「欲張るな」欲張るとお金が逃げていく。

「妬むな」妬むと友人が去っていく。

「怒るな」怒ると己を失う。と書いてあります。そして、ここで質問をいたします「明日を過去形で考えられるかどうか」夜寝るときに明日を過去形で考えられるようになると、お金持ちに直結する。それで鮮明に明日のことを、明日以降のことを、イメージががっちり浮かんできたときには大金持ち。不鮮明だけど、だいたい明日はこういうものだな、こうできて良かったなと思ったら小金持ち。中金持ちから小金持ちということになります。先程の、妬むと友達が去っていく。人が去っていく。縁が去るということでしょう。もう一つの欲張るなは、欲張ると金が去っていく。日本の中で言われている言葉と、明日を過去形でイメージする。これはカーネギーさんとかが、お金を引きつける方法や幸せを呼び込む方法ということで、本にしています。外人さんのお金持ちになる方法は、明日を過去形で考えることが、脳に訓練を施して当たり前になった人たち。例えば松下幸之助をみても、こうなりたい、こうなりたいと、なりたいがもうなっちゃった。過去形で言えばいい。安岡先生が家に帰ると疲れきっている。書齋に飛び込むと色々な偉人や豪傑が、「今日も御苦労さんだったね」と言っている気がするのではなくて、本当に言っているのだと書き残しておられます。ここらへんがポイントで「言っているんだ」と、明日を過去形で考える習慣が身についている。過去形で、現在進行形。現在進行形ということは、もう即過去になります。でも未来は違います。ということで、過去形で自分自身の体験で考えられる、感じられるようになれば、お金は入ってくる。

石川忠久先生が来られたので、私の話はここまでとします。そろそろ休憩の時間になりますが、先生が一言、話をされてから休憩の時間に入って、その後に本番でよいと思っておりますので、近況でも思ってることなど短い時間ですがお願いいたします。

《石川忠久先生—前半》

石川忠久といいます。この理事長を長くやっています。もう何年になったかな。わたくしの恩師がこの理事長しておられたのです。宇野精一という方でもう亡くなって、だいが経ちます。

わたくしは大学で中国文学科に進みました。宇野先生は中国哲学科の先生だった。実は進学する時に哲学にしようか文学にしようか迷いました。どちらでも中国の勉強に変わりはないけどね。中国哲学といえばやはり思想とか、文学といえば当時は、魯迅とかが流行っていた。そこで迷っていた時に友達がみんなで中文にいこうという話になっちゃったのね。それで7人だったかな。駒場の教養学部が終わった時に、一緒に中国文学科に入ったけど、その時に1人だけ中哲に入ればよかったかなと今は時々考える。それは昔話。

さて、みなさんが非常に熱心に論語なり昔の古典を勉強なされて敬服しています。この深澤さんという人が偉い人だなと私はそう思っています。

私の縁ができたのは宇野精一先生が二松学舎の教授もなさっていた。宇野精一先生と親しくしていただいた。変な話だけど、(宇野精一先生と)碁だけだったら、ちょうど同じぐらい。勝ったり負けたり。私の方がちょっと良かったかな。そんなこと言うと冥土で怒られるかもわからないが。当時の中国語学科、中国哲学科では碁が流行っていた。碁を打つ人が多かったです。宇野先生を御頭にして、私が命名した「竹陰会」これは白楽天の詩に、竹の陰で碁を打つという詩がある。これだと思って、宇野先生に相談して竹陰会と命名しました。何年やったかな、30年じゃきかない。あの先生は(碁を打つと)長いから、晩年までずっと。学会が地方であると、携帯碁盤を持っていき汽車に乗ってからも宿屋に着いたら食事もそこそこ。翌日は学会ですから学会に顔は出すが早々に引き上げて、また宿屋でと、何しに行っているのかわからなかったな。北海道行った時は凄かったな。連絡船の船上も勿論だけど、学会終わってから北海道全部まわっている間、仲間が4人ぐらいいましたが、その中で私が一番の後輩で記録の付け役。碁は中国の昔の人も好きでやっていた。私が一番若かったから、もうみなさんお亡くなりになった。学会という碁のことを思い出します。わたくしの懐かしい思い出の一つですね。

私の詩もそこにありますか。これを説明しなくちゃいけない。時間は何分ぐらいありますか。

塾長 時間は30分ぐらいの中で、主として忠久先生の漢詩も皆さん持っていますので、ここから色々広がるでしょう。

そうね、私の作詩人生の話でもするかな。昔話をちょっとね。

塾長 良いですね。

<ここで休憩>

《石川忠久先生—後半》

皆さんようこそおいでになりました。ここの主やっています。まだ学生の頃から、ここ

に出入りしております。

皆さんもう御存知ないかな、中山時子さんという人がいたのですが、この人が中華料理のエキスパートというのかな、料理の講習会をやって結構有名になった。一番有名だったのが料理だったかな。その頃のこと知っている人はもういないかな。まあ段々と広がり流行了りました。ある時ある会合で三笠宮と隣同士になったら、「まだ中華料理やっているの」と聞かれました。殿下もここで中華料理を召し上がった。まあそんなことで大変有名になりました。

ご承知のとおり、元々ここは幕府の管轄でしたから、向こうの医科歯科大学も全部。ここは時々タヌキ、ムジナの類が来ます。誰かがここへ放つのかな。ヘビは年中いつもいます。どこに隠れているのかは言えませんが、私は知っています。春に朝早く来ますとニョロニョロしている。餌はやっぱりあるんだな。ネズミとかね、そういったものがあるらしい。都心には珍しいでしょ。すぐ傍に電車走っていますから。ただ電車の音も塀のおかげであまり聞こえない。私の部屋はもっと奥ですから全然何も聞こえない。非常に静か。まことに都心の建物としては珍しいじゃないかな。欲を言えばね、いま医科歯科になっているあの辺までずっと、元々持っていたから、あそこまであったら素晴らしかったんだけど、まあ仕方がないな。

そんな話しているときりがないから、皆さんのお手元にある漢詩は、昨年、申年の4月9日は私の誕生日で、自分で85回目の誕生日を祝ったという漢詩です。まあ至ってつまらない詩ですけど読みます。「老來矩を踰え文宣に愧ず」この先に大きな楷樹があるでしょう。この木は山東省の孔子の故郷である曲阜から貰って挿した木です。あんなに大きくなった。湯島聖堂の看板です。

老來踰矩愧文宣
猶比放翁齊永年
不管世間多少謗
笑立春風楷樹前

自慶八十五回誕辰 岳堂

やさしい詩ですから、お分かりだと思えますけれど「文宣」というのは孔子のことです。孔子は崇められて宋代になると王様になっちゃった。「老來矩を踰え文宣に愧ず」特に解説する必要はないが「至聖文宣王」これが孔子の諡号ですね。本名は孔丘。しかし孔丘なんていったら非常に失礼で呼び捨てになります。「孔子」これは一種の尊称です。至聖文宣王とって王様の位を時の宗の王朝は孔子を崇めたわけね。歴代からずっと孔子だけは特別扱い。文宣とは孔子のことです。孔子は矩を踰えなかったと書いてありますけども、私は矩をこえちゃった。孔子様に恥ずかしいと謙遜しています。「猶放翁に比して永年に齊」と

いうのは放翁は宗のナンバー1の詩人。だいたい詩人は長生きする人は少ない。有名な詩人を思い浮かべても長生きした人は少ない。ただ放翁は長生きした。宗は北宋と南宋があるが南宋の方。南宋の陸游、陸放翁は85歳まで生きた。

だから孔子様は矩を躓えずとおっしゃったけど、私は矩を躓えちゃったから孔子様には愧かしい。しかし陸放翁と長生きは同じになった。いつのまにか85歳。この詩を作ったのは去年ですからもう86歳になっちゃった。昔の数え方だと87歳ですよ。来年は昔の数え方だと米寿だな。こんな長生きするとは思わなかった。ただね、私の父は99歳まで母親は90歳まで生きましたから、まあ見込みはあるな。ですから85歳まで生きた陸放翁と等しくしたという意味ですね。だいたい70歳まで生きれば珍しいので古希と言うんです。七十古来稀なりと言ってね、70歳まで生きる人は珍しい。今、古希なんて言うと笑われちゃうけどね。孔子様は矩を躓えなかったけども、私は矩を躓えちゃう。だから孔子様に愧かしいという洒落ですよ。

「管せず世間多少の謗り」世間ではいろいろ悪口言っている奴もいるよと。そんなもんには関係しない。管を竹冠の管と書かれたのは仄字（そくじ）です。発音は似ていますが調子が違う。現代中国語では一声、二声、三声、四声、一声は昔のおおむね、厳密には違う。二声、三声、四声が平（たい）らでない。大ざっぱに言うとそうですけど、しかし現代中国語は少し変わっています。詩を作るときにはですね、平仄（ひょうそく）の知識がないと駄目です。仮に第二句の管という字はね、関所の関という字を書いたら、これは平らなことです。これは使えない。ですから一つの同じ意味を持っているもので、平字（ひょうじ）と仄字を両方知っているとよい。多少という言葉は、今は少ない方を使う。遠慮したときに、「私、多少持ち合わせがありますよ」と。だけど元来は少ない方を使うのが多い。昔はね。ですからここは現代中国語の多少というのに近い。「いくばく」という意味です。いくばくかの謗り、世間であったとしてもそれにはお構いなし。最後の結論。「笑って立つ春風楷樹の前」世間でどんなこと言われたっていいよ。そんなことは知らん。自分一人満足して。あそこに立派な楷樹がある。あの楷樹はね、昔中国から持ってきて、苗から育てたらしい。あんなに大きくなって、この先どうなるかな。笑って立つ春風楷樹の前、世間の謗り多少あろうとそんなことお構いなしだよ。ニコニコ笑って春風の吹く楷樹の前に立っているというわけです。

その大きな楷樹、あの前に立ってね、春風に吹かれながらニコニコしているよという今の心境。我ながら良くできたかな。

私もこの理事長をやる前から（湯島聖堂に）関わっています。昭和25～6年から関わっているからね、大変だ。この立派な建物が残って良かった。大正の震災でも空襲でも大丈夫だった。都心の中心にある所にしては非常に立派な建物が守られています。私も理事長になって長いですが、もう86歳になりましたからね、そろそろ御免こうむる頃かな。内緒の話なんですけどね。私の先生の宇野先生も長生きなさった。94歳だったかな。私の両

親も長生きでしたので、まだまだ大丈夫のつもり。

塾長 先ほど作詩人生について一言いおうかねと言われましたが、どうして漢詩を作る道に踏み込まれたのでしょうか。

良い質問ですね。私は、ちょうど終戦の年に中学校に入った。中学 1 年生の夏休みまでは戦争中の経験だな。昔の満州、今の東北ですね。私事になりますが私の親父は職業軍人でした。陸軍幼年学校、陸軍士官学校、陸軍大学みんな出て、それで関東軍。新京に満州国を建てて新京は首都になった。そこを関東軍は管轄していた。親父もそこへ行って働いていた。そこで学校に上がり、そして途中で親父が関東防衛軍に転任しますから、今の瀋陽、昔の奉天へ引っ越しました。そこで小学校を終えて、中学に入りました。戦争中なので痛い経験ばかり。良い思い出はないが、しかし貴重な体験をしたと思っている。そこで終戦になり、翌年には引き上げてきました。博多に着いて東京に戻ってきた。実は東京に戻ってきた時に品川に着いたが、おふくろがね、乗り間違えちゃったの。代々木におふくろの実家があって、そこを頼ろうと思って代々木に帰るつもりだった。帰りの船の中で地図を見て、赤く塗ってある所は空襲で焼けています。母親の実家が、すれすれの線だった。代々木に帰るのに品川から代々木と逆になったが、それがかえってよかった。電車の中から焼け野原になった東京をよく見る事ができた。代々木で降りて母の実家に行きましたら、なんと、うちだけが焼けていた。何故かという、年寄りしかいなかったから逃げるのに精一杯で消せなかった。近所には若い人もいたけど、自分のことで精一杯だからね。結局我が家だけが焼けた。簡単な家を建てて、そこで祖父母たちと住んだ。この昭和 20 年の 8 月 15 日に負けてから帰ってくる約 1 年間というのは大変でした。この話をするとなら 3 時間ぐらいかかっちゃうから、ひとつだけ話すと、中学に入ったばかりなのに戦争に負けて中学が閉鎖になっちゃった。それで炭鉱で働くことになっちゃったの。その時には、流れで撫順（ブジュン）にいた。というのは、少しでも日本に近いほうがいいと思って。結局 10 ヶ月ぐらいいたかな。その間、もちろん学校は閉鎖ですから学校はいけませんし、何もしないというわけにはいかない。小学生ならばふらふらしてるけど、中学生でしたからね。幸いに撫順炭鉱という露天掘りで有名な炭鉱がある。危険まったくない。トロッコで下って行って石炭を乗っける。単純労働でしたが、大人並みの給料、日給くれました。日給 10 円。頑張って働いたら昇給して 20 円。貴重な体験したな。今も時々夢に見るけどね。撫順炭鉱で約 10 ヶ月間働いて、それで昭和 21 年 7 月に帰れたのです。

親父は軍人で関東軍にいたけど途中で南支派遣軍といって汕頭（スワトウ）に行った。そこへ出征していて、その時に東京へ帰るという選択もあった。その頃、南支は電話が通じたので電話したら、空襲が酷いので帰ると言われた。そこで親父が元いた司令部の家族と一緒に居残った。まあそれが正解だったかもしれない。地図みれば分かりますけど、昔、新京とっていた長春ね。瀋陽は奉天、そのちょうど真中に四平（シヘイ）という所

がある。四平中学という出来たばかりの中学があったが、3年生までで、終戦になりました。ところが女学校はもっと前から出来ていて卒業生を出していた。

母の実家の代々木へ帰った。それで父が軍隊に行く前に入っていた区立四中に編入試験を受けることになった。ちょうど帰ってきたのが7月の始めだったので夏休み中。幸い近所に物理学校で今の医科大の人で、ちょっと体悪くしてふらふらしている人に、詰め込みで教わってね、間に合っちゃった。9月に編入試験があって受かっちゃった。そういう訳で、この詩はね、そういう思いも込めました。

あとは、もう亡くなったけれど宇野精一先生とは、ご縁がありまして親しくしていただいた。先生を入れて6人で碁の会ができて30年ぐらいやった。そういう懐かしい思い出があるし、湯島聖堂にも相当前から出入りをしていました。まあその意味も込めて「管せず世間多少の誇り」世間ではどういう誇りをしているか分からん。多少の差はある。多少は少ない意味のときに使うときもあれば、多い意味に使うときがある。この場合は多いという意味ですからね。たくさん誇られているかも分からないけれども、それはお構いなしだよ。割と上手くできているでしょう。最後は自画自賛して終わり。

比田井理事長代行 先生、質問いいでしょうか。

いいですよ。

比田井理事長代行 今の「世間の多少の誇り笑って立つ」この漢詩の心境をちょっとお話いただきたい。

この場合は複雑な笑いだな。愉快で笑ってるんじゃないですよ。世間に色々ありますよね、その中に立っていて、何を言われようと笑っちゃう。笑い飛ばしちゃうというそんな気持ちがある。居直っている。居直り。

比田井理事長代行 当時のお話を伺うと、満州に行った方は鉄道の工事をさせられた話をよく聞きますが…

そういう人もいた。我々は親父が軍人でしたからね、軍人の留守家族ということで集まって、それでリーダーがいた。その人は無事に帰れたかな。その人のおかげでね、団体として行動して逃げた。幸いでしたよ。ただね、やっぱりあの頃のことですから、私の弟が一人死にました。それから一行で、年寄りほだいたい死にました。やはり過酷でしたね。昭和21年の6月の末、帰ってきたのは7月ですけど、貴重な体験だったな。私もこの歳になって、こういうことが言えるようになった。

塾長 先生時間がまいりました。どうも有難うございました。

<ここで講話は塾長に交代>

論語の視点（衛霊公第十五 26～28）

【二六】子曰く、巧言は徳を乱る。小を忍びざれば、則ち大謀を乱る。

口のうまい人は駄目。それから小さなことにいちいち目くじら立てなさんな。大謀は、長期計画。

今日は木内先生の話ということですから、木内先生の言われているものは、計画は立てない方が良く。計画を立てると人間が悪くなる。人間は計画を立てないで目の前にあるものを一生懸命やるのが良い。そういう人生が良い。計画を立てることは、人間性が悪くなる。悪化するとそういうことで、小を忍びざれば、則ち大謀を乱る。根っこのところで同じことになるなという気がいたします。

【二七】子曰く、衆之を悪むも必ず察し、衆之を好するも必ず察す。

大衆が良しとするものは、だいたい間違っている。また政治家、経済界が是とするものは更に酷い。恃むものは自分の判断基準と心構え。大衆が悪く言ったって本当にそうかどうか調べなきゃいけない。実際に調べてみると全然違うことがあるから。一般の人が良いと言っても実際は調べてみないと分からない。

木内先生でいくと、ソ連が共産主義というのは駄目だと。なぜ駄目なのか。親不孝者が考えた理論は駄目。ひとつの国家、国民を騙し続けるのは100年が限度。100年超してまで騙し続けることは出来ないから、ソ連は駄目になる。理由がおもしろいです。親不孝者が考えた理論なんかまともなものじゃない。安岡先生も同じことを言っておられた。けっこう繋がりますね。親孝行者が考えた理論なら良いかというと言い難い。少なくとも、親不孝者が考えたものというのは良くない。それをこういう大局で引っ張り出すから面白い。

今回、木内信胤先生を出したのは、11月12月は悟り。木内信胤先生でいこうと思っております。悟りというものは、言葉には表現できないと先生は言っておられた。悟った部分というものは、体で感じるしかない。言葉にはできない。

【二八】子曰く、人能く道を弘む。道人を弘むるに非ず。

これは朱子が扇で説明していました。道は扇です。扇は人が上手く活用すれば、少しの風も吹くし、大きな風も吹く。その扇を使い活かすのは人間次第です。したがって扇が人

間を動かすのではないと朱子が解説をしております。

道が広めるのではなくて、人が道を広める。あくまで主体は人、人間ということを考える。それで我々が、人格を向上し自分で磨きましょう。日頃の生活や仕事の中で、自分を磨いていく自覚磨錬という言葉は、ぴったり良いと思っております。

テーマ

悟り（木内信胤）

紹介書籍

『木内信胤語録』 三人会編集

この悟り、時事評論で考えると、今の政治家はだいぶ腐っている方たちが多いと思うので、政治家の人たちも、尊敬すべき政治家を誰か一人上げろという運動でもすればいいなと思っています。例えば安倍さんに「尊敬する政治家は誰ですか」と聞いてみる。岸信介さんと言うかもしれませんが、「その理由は」と聞く。

岸さんは、巣鴨プリズンで『論語講話』を1冊持って入って論語を一生懸命やっています。その後、論語を読むにつけて本を三冊書いています。かなり論語を読み込んだ人だと思います。それぞれ尊敬する人物を上げるというものは、その必要性があるなと思っております。

12月木内信胤先生をやります。もう少し深く掘ります。ただ、今日の頭の中に入れておいていただくことは、人間というものは師匠を持つことが良い。できうる限り、人格を持った素晴らしい迫力をもった人物に出会うと、その人の人生が変わる。人生が変わるような師匠に出会えれば最高の幸せになる。忠久先生がそういうポジションにおられる方だと思うので、今日のニコニコした顔が記憶に残るでしょう。自分が尊敬する人物、気になる人物。誰か一人、今日、もしくは今年いっぱい考えて見つかったらば、その方を掘り下げて頂ければ良いと思います。本日は以上です。有難うございます。